

地方創生先行型交付金(効果検証シート)

事業名	1. 子ども医療費助成事業
担当部・課	教育部子育て支援課

事業概要			
<p>子ども医療について、現行の通院医療費助成対象である小学3年生までを小学6年生にまで拡充し、保護者の経済的負担を軽減することにより、子どもの保健の向上に寄与するとともに、その健全な成長と福祉の増進を図る。</p> <p>・小学4年生～小学6年生の通院医療費の助成</p>			
事業始期	H27.4	事業終期	H28.3
予算額	4,000,000円	決算額	5,718,822円

重要業績評価指数(KPI)			
指標	指標値	単位	目標年月
助成対象数	520	人	H28.3
助成延べ件数	2,200	件	
医療への満足度に係る意識調査	70	%	
事業終了後における実績値			
指標	実績値	単位	取組評価
助成対象数	469	人	A:非常に効果的であった。
助成延べ件数	3044	件	
医療への満足度に係る意識調査	97.1	%	

事業担当課としての分析結果 (分析日:平成28年5月)	
<p>アンケート調査の結果、満足度としては非常に高く、一定の効果は出ていると分析している。</p> <p>ただし、アンケートの自由記述においては中学卒業までの拡充を求める声が多いのも事実である。</p> <p>また、大阪府内における状況については、平成28年4月時点で高校卒業までが2団体、中学校卒業までが27団体、小学校卒業までが13団体、小学4年生までが1団体となっており半数以上が中学校卒業以上となっている。</p>	
今後の方針	
<p>上記の通り、大阪府内においては助成対象年齢を中学校卒業以上が半数を占めていることから、助成対象年齢などについては、今後、検討して参りたい。</p>	
効果検証会議での評価 (評価日:平成28年6月)	

【案】

適切な取組評価であり、次年度以降も着実に推進されたい。

地方創生先行型交付金(効果検証シート)

事業名	2. 英語を生かした魅力ある教育の推進事業
担当部・課	教育部学校教育課

事業概要			
<p>関西国際空港に近い国際都市として活気のある文化的で魅力ある町を目指すため、町全体で英語を体験できる機会を設け、あらゆる世代が英語にふれあう場を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町内の保育所・幼稚園児童を対象に、通年で英会話を体験するためのネイティブ講師等の派遣等 ・ 小中学生の夏休み英語体験村に係るネイティブ講師派遣等 ・ 本町住民(中学生・高校生)の英語検定試験料の全額補助 			
事業始期	H27.4	事業終期	H28.3
予算額	6,000,000円	決算額	7,416,117円

重要業績評価指数(KPI)			
指標	指標値	単位	目標年月
体験学習参加者数	150	人	H28.3
検定試験受験者数	100	人	
検定試験合格者数	70	人	
事業終了後における実績値			
指標	実績値	単位	取組評価
体験学習参加者数	331	人	A: 非常に効果的であった。
検定試験受験者数	146	人	
検定試験合格者数	92	人	

事業担当課としての分析結果 (分析日:平成28年5月)	
○【体験学習】	<p>英語で楽しむ、学ぶ等の体験する場を、就学前から中学生まで、また町民にも広く提供でき、内外にも「忠岡町イングリッシュタウン」(仮称)をアピールでき、参加者の満足度は高かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通年での就学前(5歳児)幼児の英会話体験・・・町立保育所及び幼稚園において年間6回(各学期2回)実施。子どもたちは、英語というツールを通してコミュニケーションを行う楽しさを体験できた。 ・ 小中学生の夏のイングリッシュデー・・・「英語で学ぶ体験活動」をコンセプトに実施。実施後のアンケートには、肯定的な評価がほとんどであった。 ・ 冬のイングリッシュレッスン・・・幼児(5歳児)、小1, 2, 3を対象に毎週土曜日13回のレッスンを実施。幼児28名、小学部69名、計97名が参加し出席率は全体で87%で、大変、好評であった。 ・ Fun Party2016・・・イングリッシュレッスンの発表会、異文化ブース体験、ハローキティとの交流、前田健太選手への英語でのメッセージの活動に延べ約200人が参加し、大盛況であった。
○【検定試験受験者数・合格者数】	<p>英語検定試験の年1回の受験料補助により、本事業未実施のときよりも中学生の受験者数が増加した。また、忠岡町在住の高校生以上の学生にも対象を拡充したことにより、「忠岡町イングリッシュタウン」(仮称)のアピールにもつながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学生の志願者数 H25年(本事業未実施時):59名、H26年:122名、H27年:123名 ・ 中学生の合格者数 H25年(本事業未実施時):40名、H26年: 86名、H27年: 85名

今後の方針

○【体験学習】

「英語で楽しむ、学ぶ」等の体験する場を、就学前から中学生対象を中心に提供する。
具体的な方針: 英語で町をPR。世界に忠岡の魅力を発信。→「英語の町・忠岡」の認知を国内・外で高める。

○【検定試験受験者数・合格者数】

年間100人以上の中学生志願者を保持する。そのために、小中学校の英語教育を支援しながら、受験者数・合格者数の増加を図る。

効果検証会議での評価

(評価日: 平成28年6月)

【案】

適切な取組評価であり、次年度以降も着実に推進されたい。
今後の事業の進め方については、もっと英語に興味・関心をもってもらえるように事業を推進していかなりたい。

地方創生先行型交付金(効果検証シート)

事業名	3. ウォーキングコース策定事業
担当部・課	教育部生涯学習課

事業概要			
<p>公園や歩道のウォーキングコースに歩行距離や施設名称を記したサインを設置するとともに、ウォーキングマップを作成し、住民の健康づくりと町のPRとなるイベントの開催によりウォーキングへの関心を高め普及啓発を図るとともに、町の魅力づくりを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストラクターによるウォーキングイベントを開催 			
事業始期	H27.4	事業終期	H28.3
予算額	3,000,000円	決算額	2,951,143円

重要業績評価指数(KPI)			
指標	指標値	単位	目標年月
イベント参加者数	300	人	H28.3
公的施設年間利用者数	2,700	人	
事業終了後における実績値			
指標	実績値	単位	取組評価
イベント参加者数	112	人	B: 相当程度効果があった。
公的施設年間利用者数	2783	人	

事業担当課としての分析結果 (分析日:平成28年5月)	
<p>ウォーキングイベントは、参加対象者を高校生以上とし4kmウォーキングとインストラクターによる実演をおこなった。申込者は133人で、当日は雨となりキャンセルも多く参加者は112人であった。</p> <p>イベントによる効果としては、終了後のアンケート調査で初めてウォーキングされた方も、これからウォーキングを始めたいと思われた方が多く健康への関心を深めることができた。</p> <p>また、正木美術館に初めて入館された方や後日行かれた方もいるなど町の魅力発信に繋げることができた。</p> <p>アンケート結果(回収率83%):良かった42%、普通56%、良くなかった2%</p>	
今後の方針	
<p>数少ない文化遺産を活用して、イベントは子どもから高齢者まで参加できるものとし、またゲームを取り入れ楽しむウォーキングイベントの企画を行う。</p> <p>27年度に策定したウォーキングコースを町外にも広く周知することで、来訪者を増やし町の魅力を発信していく。</p>	
効果検証会議での評価 (評価日:平成28年6月)	

【案】

概ね適切な取組評価であり、次年度以降も着実に推進されたい。
 今後の事業の進め方については、町内外の方が興味を持ってもらえるように、更にイベント等を工夫されたい。

地方創生先行型交付金(効果検証シート)

事業名	4. 子育て世帯等住宅取得奨励補助事業
担当部・課	産業まちづくり部建設課

事業概要			
<p>本町の少子化及び人口減少を抑制し、子育て世帯の支援と若年層人口の増加を図るため、町に在住する子育て世帯(うち妊娠中の世帯含む)及び子育て世帯の転入者が新たに住宅(新築・中古)を取得する場合に補助金を交付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助申請時の建物登記等に記載された債権額に応じ補助(上限17万円) ・ 転入世帯は、3万円加算 			
事業始期	H27.4	事業終期	H28.3
予算額	10,000,000円	決算額	3,550,000円

重要業績評価指数(KPI)			
指標	指標値	単位	目標年月
補助申請件数	45	件	H28.3
助成件数のうち転入世帯数	20	世帯	
事業終了後における実績値			
指標	実績値	単位	取組評価
補助申請件数	20	件	C:効果があった。
助成件数のうち転入世帯数	10	世帯	

事業担当課としての分析結果 (分析日:平成28年5月)	
<p>目標指標に対し、実績が半数程度しかなかったが、申請件数の半数は転入者であることから、人口減少の抑制に一定の効果があったと考える。</p> <p>転入者件数 10件 転居者件数 10件</p>	

今後の方針
<p>子育て世帯等の住宅取得の一助となるよう制度の周知等を図っていく。</p>

効果検証会議での評価 (評価日:平成28年6月)
<p>【案】</p> <p>概ね適切な取組評価であるが、更なるPRを推進し子育て世帯および若年夫婦の転入及び定住の促進を図られたい。</p>

地方創生先行型交付金(効果検証シート)

事業名	5. 特定不妊治療支援事業
担当部・課	健康福祉部保険課

事業概要			
<p>不妊治療の経済的負担の軽減を図るため、高額な医療費がかかる、配偶者間の体外受精・顕微授精に要する経費の一部について、町助成枠の1回を拡充し、2回目以上についても大阪府と同回数助成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助成額1回につき上限50,000円 			
事業始期	H27.4	事業終期	H28.3
予算額	1,000,000円	決算額	186,700円

重要業績評価指数(KPI)			
指標	指標値	単位	目標年月
助成件数	20	件	H28.3
妊娠件数	8	件	
事業終了後における実績値			
指標	実績値	単位	取組評価
助成件数	5	件	C: 効果があった。
妊娠件数	1	件	

事業担当課としての分析結果 (分析日:平成28年5月)	
<p>平成26年度と平成27年度の母子手帳発行数および平成26年度末と平成27年度末の0歳児の数を比較すると、ともに減少しており、不妊治療実施の有無に関わらず全体的に減少傾向であった。町独自の不妊治療費助成件数と合わせてみると、町独自の不妊治療の助成件数は、平成25年度は12件、平成26年度は7件、平成27年度は17件(実人数11件)あり増加傾向にあるが、2回目以降の助成への申請が少ない状況であり、本来の不妊治療費が高額で複数回行うことが出来ないこと、大阪府の助成事業回数に到達しており、申請自体が行えないことなどが考えられる。</p> <p>妊娠件数についても40歳以上の対象者が多く、妊娠に至らない状況が考えられる。また事業当初の指数そのものが多かったとも推測される。</p>	
今後の方針	
<p>晩婚化が進む中で、不妊治療での妊娠を希望する方も多く、また助成対象も増加傾向にあり、拡充を図りながら事業を続ける必要がある。</p>	
効果検証会議での評価 (評価日:平成28年6月)	

【案】
概ね適切な取組評価であるが、次年度以降も着実に推進されたい。

・PDCAサイクル: Plan - Do - Check - Actionの略称

Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不断のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと。

Plan-Doとして効果的な地方版総合戦略の策定・実施、Checkとして地方版総合戦略の成果の客観的な検証、Actionとして検証結果を踏まえた施策の見直しや地方版総合戦略の改訂を行うことが求められる。

・重要業績評価指標(KPI): Key Performance Indicator の略称

施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標をいう。

・効果検証シートの取組評価基準

評価基準	
評価	基準
A: 非常に効果的であった。	実績値が指標値を上回った場合(指標値の100%以上)
B: 相当程度効果があった。	実績値が指標値を上回ることはなかったものの指標値の相当程度達成した場合(指標値の70%~100%未満)
C: 効果があった。	実績値が指標値を上回ることはなかったが事業開始前よりも改善した場合
D: 効果がなかった。	実績値が事業開始前の数値よりも悪化している場合